

1 キリスト教教理入門

- 1 1. 神学をすること
- 2. 神の啓示
- 3. 神の性質
- 4. 神のみわざ
- 5. 人間
- 6. 罪

- 2 7. キリストの人格
- 8. キリストのみわざ
- 9. 聖霊
- 10. 救い
- 11. 教会
- 12. 終末

2 第二部 神を知ること

- 1 「キリスト教神学」
 - 8章 神の普遍的啓示
 - 9章 神の特別啓示
 - 10章 啓示の保存: 霊感
 - 11章 神の言葉の信頼性: 無誤性
 - 12章 神の言葉の力: 権威
- 2 『キリスト教教理入門』
 - 3章 神の普遍的啓示
 - 4章 神の特別啓示
 - 5章 啓示の保存: 霊感
 - 6章 神のことばの信頼性: 無誤性
 - 7章 神のことばの力: 権威

3 第5章 啓示の保存: 霊感

- 1. 霊感の定義
- 2. 霊感の事実
- 3. 霊感の諸理論
- 4. 霊感の範囲
- 5. 霊感の強度
- 6. 霊感についてのひとつのモデル

4 第一節 霊感の定義

- 1. 聖霊の超自然的影響
- 2. 口伝以上の何か
- 3. 垂直的行為と水平的行為

5 第二節 霊感の事実—a

- 1. 循環論法なのか
- 2. 循環論法との非難に答える
- 3. 神によって吹き出された

6 第二節 霊感の事実—b

1. 初期の教会の説教
2. 「主は...と語られた」
3. 主ご自身の見方

7 **第三節 靈感の諸理論**

1. 直観理論
2. 照明理論
3. ダイナミック理論
4. 言語理論
5. 口述理論

8 **第四節 灵感の範囲**

1. 灵感されているもの何か
2. 第二テモテ3:16「聖書はすべて」
3. 第二ペテロ1:19-21、ヨハネ10:34-35「律法と預言」
4. 新約聖書もーペテロ、ヨハネ、パウロ

9 **第五節 灵感の強度**

1. 言葉の選択まで？
2. 言葉、音節、句読点のしるし
3. 説明の記述もー神に
4. イエスの言及「...と書いてある」

10 **第六節 灵感についてのモデルーa**

1. 二つの基本的方法
2. 第一義的に、教えのための資料
3. 聖書著者の思想を導く

11 **第六節 灵感についてのモデルーb**

1. ケネス・パイクの倍率の次元
2. 特性ー詳細・拡大の様々なレベル

12 **第六節 灵感についてのモデルーc**

1. 灵感は言葉の選択にまで
2. 霊的生活を通しての備え

13 **第六節 灵感についてのモデルーd**

1. 「神の思い」を思う
2. 書物ー派生的に灵感